

京のブランド産品

丹波くりを知る

南丹広域振興局



令和5年2月13日

本日の講座

- 1 くりの歴史
- 2 世界のくり
- 3 くりの生産量
- 4 丹波くりのお話
- 5 経営指標
- 6 丹波くりの栽培体系
- 7 丹波くりを取り巻く状況
- 8 くりの品種と品種の選び方
- 9 消費の流れ
- 10 栽培と管理



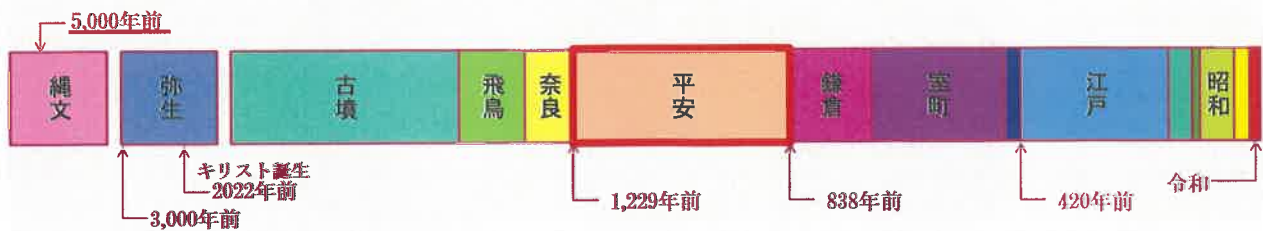
1 くりの歴史

とても古い日本のくりの歴史

1 くりの歴史

栗の歴史はとても古い

- ・縄文時代の遺跡「三内丸山遺跡（青森県：約5000年前）」からも数多くの栗が出土
- ・平安時代（794～1,185）838年前
平安時代初期には京都の丹波地域で栽培され始め、徐々に地域が拡大
書物では古事記（712年）や日本書紀（720年）にも登場
平安時代の法典「延喜式（えんぎしき）：927年」には、乾燥させて皮をむいた「搗栗子（かちぐり）」や、蒸して粉にした「平栗子（ひらぐり）」なども記されている。
- ・日本各地で栽培されていた栗だが、昭和16年頃に発見された害虫「クリタマバチ」による被害で、日本中の栗園は大打撃を受ける。
それ以降はクリタマバチに抵抗性を持つ品種が育成されて現在に至っている。



2 世界のくり

秋の味覚を代表する「栗」は、大きく分けて4種類



2 世界のくり

(1) ニホングリ

- ・国内で一般的に売られている
- ・野性のシバグリ（芝栗）を品種改良したもの
- ・果実が大きく風味がよいのが特徴
- ・甘味がやや少なく渋皮をはがれにくいのが難点



2 世界のくり

(2) チュウゴクグリ

- ・甘くて渋皮がむきやすい
- ・果実が小さい
- ・栗の害虫である「クリタマバチ」の被害を受けやすい
- ・日本では栽培されていない。
- ・「天津甘栗」の原料としてよく使われているのは、「板栗（バンリー）」という品種



2 世界のくり

(3) ヨーロッパグリ

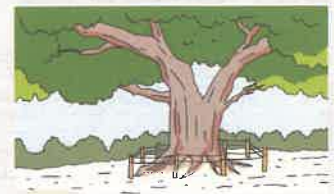
- ・小ぶりで渋皮がむきやすい
- ・病気や害虫被害を受けやすい
- ・日本では栽培されていない。
- ・マロングラッセなどに使われる



2 世界のくり

(4) アメリカグリ

- 果実の品質がよい
- 大きくて強い樹が木材として利用価値が高かった
- 1900年頃に発生した「胴枯れ病」の被害によりほぼ壊滅
- 現在でも一部の地域で栽培されているが、病気に弱いため、日本で栽培することはできない。



3 くりの生産量

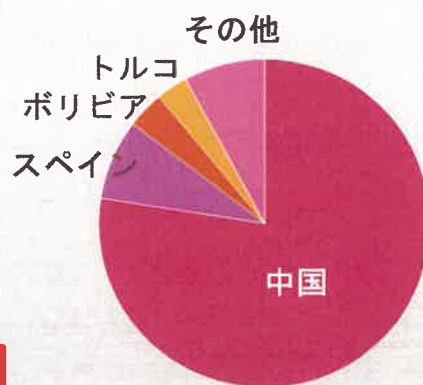
世界の生産量 日本生産量 京都生産量



3 くりの生産量 ～世界の生産量～

(1) 世界の主要生産国（全体約239万トン）

順位	国名	生産量（トン）	割合（％）
1位	中国	184万9,137	76.83
2位	スペイン	18万8,930	7.85
3位	ボリビア	8万6,280	3.58
4位	トルコ	7万2,655	3.02
5位	韓国	5万4,708	2.27
6位	イタリア	3万9,980	1.66
7位	ポルトガル	3万5,830	1.49
8位	ギリシャ	2万8,980	1.2
9位	日本	1万5,700	0.65
10位	北朝鮮	1万2,872	0.53



出典：FAOSTAT（2018年）

3 くりの生産量 ～輸入と輸出～

(2) 日本の輸入先と輸入量

順位	輸入先	輸入量（トン）	輸入額（万円）	単価（円/kg）
1位	中国	2,836.2	10億3,549	365
2位	韓国	2,288.8	23億8,808	1,043
3位	イタリア	2.5	264	1,056
4位	その他	0.6	98	1,711



(3) 日本の輸出先と輸出量

順位	輸出先	輸出量（トン）	輸出額（万円）	単価（円/kg）
1位	中国	730.9	3億8,169	522
2位	カンボジア	0.50	41	819
3位	香港	0.48	82	1,728

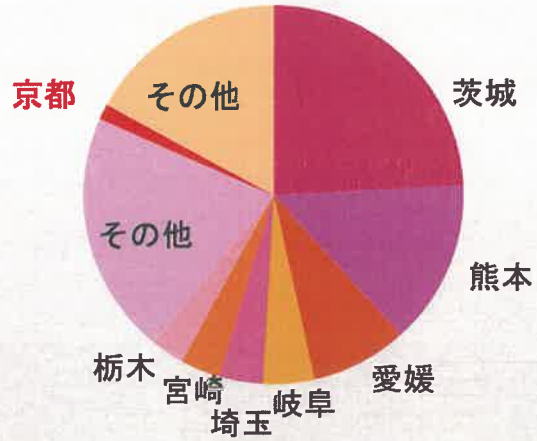


出典：農林水産省 輸出・国際局国際経済課（2021年）

3 くりの生産量 ～日本の生産量（令和3年）～

(4) 都道府県別生産量（全国15,700^t）

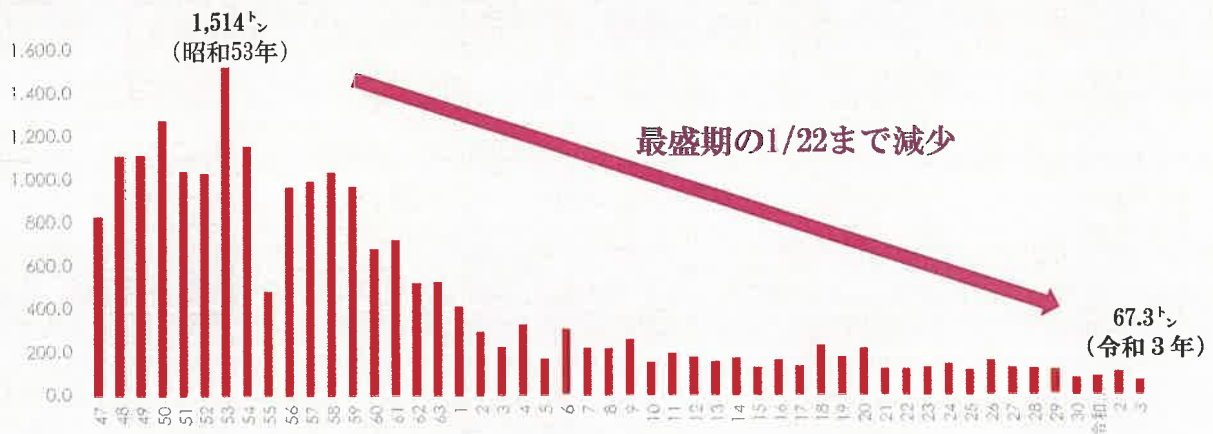
順位	府県名	収穫量(^t)	割合(%)
1位	茨城	3,800	24.2
2位	熊本	2,210	14.1
3位	愛媛	1,300	8.3
4位	岐阜	685	4.4
5位	埼玉	581	3.7
6位	宮崎	527	3.4
7位	栃木	455	2.9
18位	京都	203	1.3
22位	香川	21	0.1



出典：農林水産省 大臣官房統計部生産流通消費統計課（2021年）

3 くりの生産量 ～京都の生産量～

(5) 京都のくりの生産量



3 くりの生産量 ～京都の生産量（令和3年）～

（6）京都のくり栽培の特徴

- 経営規模が零細
 - 生産量：67.3 トン（長雨、日照不足）（R2：106.3 トン、R1：84.8 トン）
 - 栽培面積：179 ha
 - 個人生産面積：0.1～0.3 ha/人
 - 反収：15～30 万円/反
 - 平均単価：1,621円/kg（2L以上、JA京都）
 - 品種：中生種（筑波、銀寄）60% ※多品種
 - 出荷先：京都市場（直販96% 共販率4%）
 - 出荷姿：生くり 100%
- 個人選別の徹底
- 高齢者も生産できる（大型機械不要）

4 丹波くりのお話

丹波くりが有名になった訳



4 丹波くりのお話

- 丹波くりの栽培歴史は古く、丹波地方で産するクリを徳川時代の前半期ごろから「丹波くり」と称す。
- 元来「丹波くり」と称されているのは
 - 京都府（南桑田郡、船井郡、河鹿郡、天田郡）
 - 大阪府（豊能郡）
 - 兵庫県（氷上郡、多紀郡、川辺郡）

三府県から産出されるクリの総称。

4 丹波くりのお話

丹波くりが有名になった訳

• 鎌倉・室町時代（1,185～1,573）838年前

都に近かった丹波は、天領・寺領に併せて山地が多く水田が少なかったことから、献上品や物税としてクリ作りが発達し、年貢米の代替えとして認められていた。「米一升、くり一升」と言った優秀な大粒クリの形質が伝えられるようになった。



• 江戸時代（1,603）420年前

全国的に名声が拡がったのは、尼崎の魚商人が丹波地方に魚を売りに行った帰り空荷を幸いに、くりを持ち帰り「丹波くり」と呼んで売り歩き、又は店先で販売したのを参勤交代で通る武士たちが買い、諸国へもたらしたと言われている。

5 経営指標

栽培の参考（1）

5 経営指標

※詳細は別添のとおり

	所得	所得率	
クリ：	369,230円	63.3%	10a当たり
米：	-9,911円	-11.9%	10a当たり

6 丹波くりの栽培体系

栽培の参考 (2)

6 丹波くりの栽培体系

1 耕種概要

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	栽培技術上のポイント
栽培方式													(1)休耕田の活用は耕板を 壊して深耕を遂行する。 (2)老樹の改植、新植に 当たっては品種を単純化 する。 (3)若木の芯抜きを勤行し、 低樹高に努め、成木の側 枝更新及び整枝剪定を徹 底する。 (4)有機物施用による地力 の回復 (5)果実害虫の重点防除を 徹底する。
栽培概要	剪定	剪定	剪定	防除 (樹幹害虫) ・カシノコバ ・コナシ	防除 ・クスサシ ・グリイガアブラムシ	防除 ・モモゴマダラ /メイ	防除 (樹幹害虫) ・カミキリ ・モモゴマダラ /メイ	防除 ・モモゴマダラ /メイ ・ウツギアブムシ ・オシキリムシ	・ケルネソウムシ	礼肥 イガの処理 園内清掃	元肥	剪定	
			園地管理 (見回り)		草刈り		草刈り 実肥	草刈り		収穫・出荷			

(凡例) …休眠 △展葉 ○開花 —生育 V防除 収穫 定植 ≠剪定

7 丹波くりを取り巻く状況

7 丹波くりを取り巻く状況

「京のブランド産品」※)の認証(平成元年～)

- ・現在31品目(加工品2品目) 113産地が認証
販売額:141,695万円(令和3年度)
うち「丹波くり」717万円(3.8t)
- ・「丹波くり」のブランド認証は平成2年から
現在3市1町2産地指定
(亀岡市、南丹市、福知山市、京丹波町)

※「京のブランド産品」

安心・安全と環境に配慮した「京のこだわり生産認証システム」により生産された京都府農林水産物の
中から品質・規格・産地を厳選したもので、(公社)京のふるさと産品協会が認証

「京のブランド産品」の生産地
丹波くり生産地



7 丹波くりを取り巻く状況（2-1）

1 価格が高い

丹波産	出荷価格	規格	販売価格（丹波産）
早生種	500~700円/kg	3 L	2,000~3,000円/kg
中生種	700~1,200円/kg	2 L	1,500~1,800円/kg
		L	1,000~1,200円/kg

他府県産	出荷価格
早生種	750~1,200円/kg
中生種	500~900円/kg

2 出荷のピークが遅い

産地	出荷のピーク
丹波（中生種が中心）	9月中旬~10月上旬
他府県（九州）	8月下旬~9月下旬

7 丹波くりを取り巻く状況（2-2）

1 生産状況

- ① 昭和50年代より減少
 - ・原因…生産者の高齢化、くり樹の老朽化
- ② 出荷のピークが遅い → 中生種中心
 - ・主な品種（銀寄、筑波）

2 流通状況

- ① 物が少ない → もっと欲しい
 - ・愛媛 78.6 t (58%)、京都 34.5 t (26%)、京都市場 135 t（令和2年度）

3 消費状況

- ① 菓子屋のニーズの変化 → 大半が半加工製品を購入
- ② 材料として価格が高く、少量しか使われていない
- ③ 和菓子屋 「季節感の先取り」 → 早生くりを望む
- ④ 京都老舗和菓子屋 「京菓子」…丹波くりと丹波大納言小豆 → 中生くりを望む

8 くりの品種と品種の選び方

栽培の参考 (3)

8 くりの品種と品種の選び方～品種特徴～

品種名	収穫期	樹性、樹姿	果重	果肉質	特徴
伊吹	9月上旬	中開張性	20～25g	淡黄白色 やや粉質	豊産性、双子果、着果過多 モモノゴマダラメイガ被害が多い 強風、落穂が多い、新梢発生 密
丹沢	8月下旬～ 9月上旬	やや強 やや開張性	20～25g	淡黄色 粉質	双子果や果頂裂果が多い。
出雲	9月上旬	極めて強 やや直立性	25～28g	淡黄白色 粉質	冷夏、干ばつに強い。 双子果やや多い。
筑波	9月下旬～ 10月上旬	中 やや開帳性	20～25g	淡黄色 粉質	幼木期から良く結実し収量は多い。 品質良。肥沃地向き。
銀寄	9月下旬～ 10月上旬	強 やや開帳性	20～25g	淡黄色 粉質	幼木期は収量が少ない 強風で落下しやすい。品質良。
秋峰	9月下旬～ 10月上旬	中、 直立・やや開帳性	20～25g	黄色 粉質	甘味、香気が多い
紫峰	9月中、下旬	中 直立・やや開帳性	25～28g	淡黄色 粉質	双子果、烈果は少ない。 クリタマバチに強い抵抗性。 若木のときは旺盛。
美玖里	9月下旬～ 10月上旬	強 直立性	25～28g	黄色 粉質	高木化し高い。収量少。 加工用に人気が高い。
利平栗	9月下旬～ 10月上旬	強 やや直立性	20～25g	淡黄白色 粉質	収量は少ない。幼木から若木の間は 生育が旺盛。
ほろすけ	8月下旬～ 9月上旬	中 開帳性	20～25g	淡黄色 やや粉質	裂果多少発生 渋皮剥皮性 優
ほろたん	9月上、中旬	強 やや直立性	25～30g	黄色 粉質	双子果の発生やや多い。 渋皮の剥皮性が優れる。
岸根	10月中旬	やや強 やや直立性	25～30g	乳白色 粉質	生理落下は少なく豊産性ではない。 品質は良く、土層の深い肥沃地を好む。

8 くりの品種と品種の選び方

品種の選び方

- ・ 誰に売するのか、誰に食べさせるのか。
- ・ クリは同じ品種の花粉では受精しにくいいため、複数の品種を組み合わせる必要がある。
- ・ どの品種を選び、どのように組み合わせるかは、「品種特性」「気象条件」「土壌条件」「経営内容（主力農作業）」「栽培方法」などを考慮する必要がある。

8 くりの品種と品種の選び方

(1) 「病害虫も少なくあまり手をかけずに作りたい」

- ・ 剪定による低樹高仕立て（的確な縮間伐で樹冠内、樹園地への受光を確保
- ・ 樹幹害虫（カミキリムシ、カシワスカシバ、コウモリガ）の見回り
- ・ 耕土の確保（灌水可能地：40～50cm、灌水不可地：50～60cm
- ・ 果実害虫防除（夏期2回）

8 くりの品種と品種の選び方

(2) 「とにかく味の良いものを作りたい」
品種による味の違いは大きい！

品質	品種
最上位	利平栗、人丸
最上位～上位	秋峰、銀寄、美玖里
上位	筑波、紫峰
上位～中位	石鎚、岸根、伊吹
中位	丹沢、出雲
中位～下位	国見

8 くりの品種と品種の選び方

(3) 長期間収穫する品種の組み合わせ

- ・リスク（気象、病害虫）の回避
- ・大規模経営 収穫労力の分散
- ・販売戦略のレパートリー（品数）

種別	品種
早生種(8月下旬～9月上中旬)	出雲 > 丹沢 > 大峰、国見、人丸、伊吹
中生種(9月上中旬～10月上旬)	有磨 > 筑波、紫峰、美玖里、利平栗 > 銀寄、秋峰
晩生種(10月上旬～10月上中旬)	石鎚 > 岸根

9 消費の流れ

栽培の参考（4）

9 消費の流れ

（1）従来

生産者 → JA → 市場 → 仲買 → 小売り（デパート、スーパー）

（2）今日

生産者 → JA → 市場 → 仲買 → 小売り（デパート、スーパー）

生産者 → ネット販売（個人）、菓子工房

生産者 → 道の駅

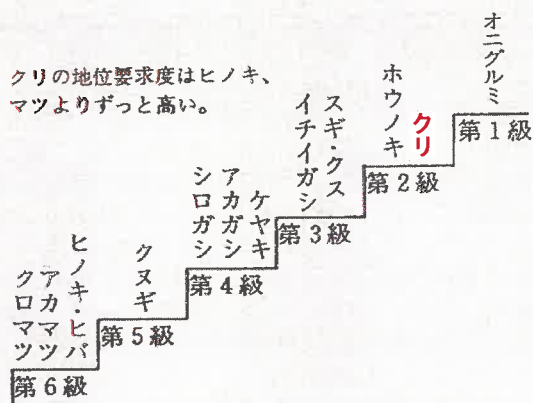
10 栽培と管理

栽培の参考 (5)

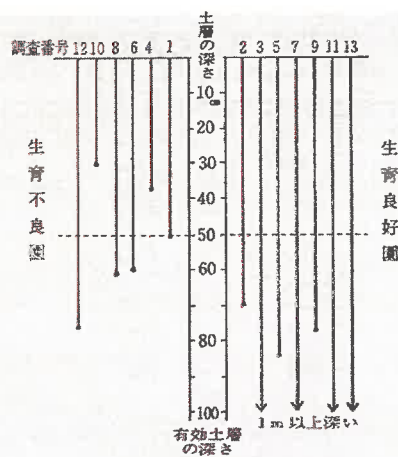


10 栽培と管理 ～適地の選定～

クリの地位要求度はヒノキ、マツよりずっと高い。

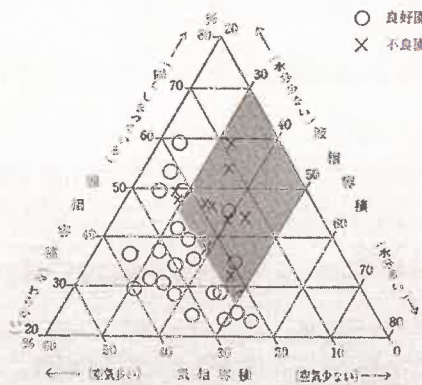


林木の地位要求度

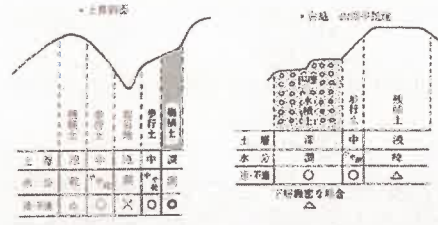


生育不良圏と良圏の有効土層の深さ
(クリの生育に対して、有効土層の深さは、大きな影響力を持っている。)

10 栽培と管理 ～敵地の選定～



生育良好園と不良園の土壌三相分布(京都農試)
(※水溶性塩は乾燥(105℃)後、測定の10%以上あるところは多い。つまり土が固くしっとり過ぎる所が多いところである。)



- ◎ 最速地
- 速地
- △ 速地中層
- × 速地別表

地質と地層別表による地-不適地

10 栽培と管理 ～休耕田の活用～

休耕田を活用したクリ園のご紹介



既存園



新規

10 栽培と管理 ～休耕田のくり園化～

休耕田を活用したクリ園

- ・平坦地は作業が容易
- ・剪定などの作業が安心・安全

●休耕田での失敗原因

- ・深耕と排水対策の不備

●開園について

1. 土壌を深く掘り起こす（深耕H=1.0m）
2. 排水をよくする（暗渠工の設置）
3. 周辺や隣接農地に日陰など悪影響を及ぼさない

10 栽培と管理 ～土 壤～

休耕田を活用したクリ園のご紹介

（1）リッパーによる深耕（一本爪）H=1.0m



10 栽培と管理 ～暗渠工～

休耕田を活用したクリ園のご紹介

(2) 暗渠排水工の設置



- 暗渠排水路
W500mm × H800～1,000mm



竹・粃殻を活用した暗渠工

粃殻の活用



10 栽培と管理 ～植穴～

休耕田を活用したクリ園のご紹介

(3) 植穴の設置



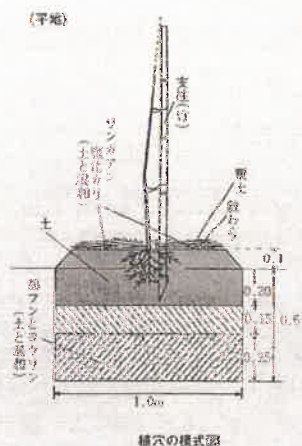
植穴掘削
W1,000mm × D600mm



植穴
W1,000mm × D600mm

10 栽培と管理 ～植え付け完了～

休耕田を活用したクリ園のご紹介 (4) 苗木植付け



平成20年開園

面積：0.18 ha

植栽本数：88本

植付間隔：4.0m × 4.0m

10 栽培と管理 ～管理作業等～

(5) 整枝・剪定

1～3月

(6) 除草(下草刈り)

4～5回/年

4月末、7月、8月、9月

(7) 防除

クスサン等

必要により1回

モモノゴマダラメイガ

3回

クリシギゾウムシ

1回

(8) 施肥

元肥、実肥、お礼肥

(9) 収穫と熟成

早生：8月下旬～9月上旬

中生：9月中旬～10月上旬

晩生：10月上旬

ご清聴ありがとうございました

